

建国祭齋行

建国記念日制定三十周年を迎えて

二月十一日(日)の「建国記念の日」、午前十一時より本殿にて我が国の誕生

を祝う建国祭が厳粛に齋行された。宗像大社以下奉仕



神職・巫女、参列者が参進所定の座に着座し祭典を開始。神武天皇建国以来の日本の国体護持と皇室・国家が祝詞を奏上、続いて巫女による浦安舞の奉納、玉串拝礼と執り行い滞り無く祭典を終了した。

今年、昭和四十一年に「建国記念の日」が制定されてから三十周年となる。「日本書紀」では辛酉の年春一月一日、神武天皇が大和の橿原の地に即位式を挙げられた日、太陽暦の採用に伴って、この正月元日は一月一日となり、以来この日我が国の誕生日と制定され宮中の皇霊殿に於て祭典が執り行われ全国に広がる。占領軍の敗戦により、占領軍の「軍国主義的」で

あるとして、その存続を認めず、紀元節は廃止された。昭和三十一年に復興祭が衆議院に上程されたが、占領政策に洗脳された一部の人間が強力な反対運動を展開した。しかし、日本の建国に對する奉祝行事のことが軍国主義なのか不思議でならぬ。

この様な日本とは裏腹に、世界各國は自分の建国の歴史をよく知ろうと努めている。例えばアメリカは建国記念日を七月四日を記念する日として七月四日の独立記念日を国民祭に祝うし、ソ連崩壊後のハンガリーは、西暦一〇〇〇年に初代国王が即位した、八年二十日を記念日と制定した。

自国に誇りを持ってこそ進む人々との相互理解も他國の歴史であり、自國の歴史も知らない人は決して国際社会では尊敬されない。

氏貞公墓前祭

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月

四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て大社司祭の宗像氏貞公の御徳を敬仰する祭典を奉仕し、続いて参列者が玉串を捧げ、墓前祭は滞りなく終了した。

その後、今門公民館にて直会の席が設けられ、同地区の方々により用意された真心からなる御馳走を頂きながら、氏貞公の御徳に思いを馳せつつ参列者一同歓談の一刻を過ごした。

氏貞公は、戦国時代の当大社の大宮司であり、戦国武將として宗像の地を治め

孔大寺神社祭

春暖と言うに相応しく、穏やかな好天に恵まれた三月二日(土)、恒例の孔大

寺神社祭が、午前十一時厳肅に齋行された。

孔大寺神社は宗像四塚連山の最高峰である孔大寺山中腹に祀られ、地元池田地区の氏子の方々を始め、宗像、遠賀一円の皆様より、篤い信仰を受けている。

御祭神は大己貴命、少名彦命の医業神で、痘瘡や疫病除けの御神とされた。当日は早朝より、多くの参拝者が賑わい、一千段もの石段を、春の山を楽しみながら登ってゆく。

年に一度のこの大祭を前に、地元池田地区の氏子の皆様が一小さな草履を付けて、アオキの枝の装束を守り、「作り」に連日奉仕された。大祭を過ぎると各家の玄

中国調査紀行(13)

一誌一話(50)

樂 杏 子

沖ノ鳥祭祀のなかで、対中国大陸との交渉に関わってくる祭りが、半岩陰半露の祭場である。これは七世紀紀元前に入ると、この祭祀に奉獻されていた金銅製の龍頭に酷似する、デザインで描かれていた龍の絵は、敦煌の莫高窟の窟窟の内、壁面で見ることが出来る。この酷似している龍は、中国の南北朝の時代に、北魏、東魏の頃に製作されたものに多く見られる。

また龍は魏朝の頃に幻の神獣としてよく使われてきた。魏朝の頃に掘られた龍窟は莫高窟南壁の東方に固まっていた。今回も龍窟の用途を知ることが出来る。第一五九号石窟は見られなかったが、敦煌石窟に関する調査報告書によると、この号は唐時代に「一」として描かれた壁画である。

この壁画は王公が市居に行幸し、一般生活を見分している様子である。その中でも王妃の後ろに仕える従者の女官が、長い竿の先に天蓋を着け、笠を差し掛けている図がそれである。

龍頭そのものは、笠を取った反り鏡を兼ねた用具であり、龍の下半には釣手の鉄釣を着した笠を釣の用途でよく描き表わされている。

ただし一九五九号石窟は中唐期の七世紀代に作られた窟窟である。沖ノ鳥の五号遺跡出土の金銅製龍頭が表わしている特徴は、龍頭が一角の角を持つ、口唇を大きく上下にめくるように開けている。上唇の方は鳥の喙状に長く大きく屈曲させている。

唐代以降に多く表現されてくる、頭に二角を有し、長く伸ばした口唇という、龍の特徴とされる構造を、五号遺跡出土の龍頭からは、見ることが出来る。

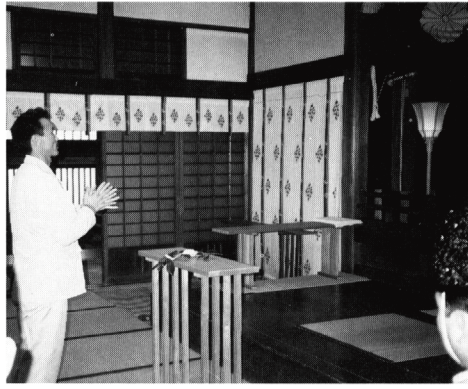
また、沖ノ鳥の龍頭に残存している、円筒の筒口の留釘と口の中央部の鉄釣の跡などから推定して、まず天蓋の金具であったことは、疑いない。

話はどるが、北魏・東魏の頃の龍の絵には多くは、角が一角であり、口唇は長いのが特徴である。沖ノ鳥五号祭祀場跡よりの出土品が、まったくその通りである。

莫高窟の石窟を大まかに各時代ごとに見て廻ったが、二五九号、二五五号、二五九号と北魏時代の石窟が目にとまった。

清明殿還座祭

大修理始まる

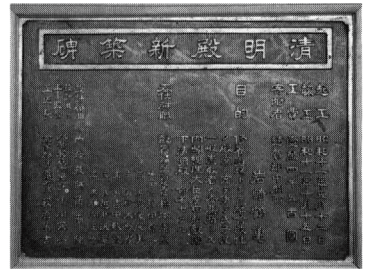


宗像大社の清明殿は結婚式場として、氏子参集殿として、又諸々会合、研修の場として広く使用されて来た。今、当大社は境内建造物の大修復事業に着手している。昨年末に拝殿御屋根の御屋根も鋼板葺きになった。新年は美しい柿葺き拝殿で参拝者を迎えた。又筑前大島鎮座の中津宮御本殿の解体修復工事も進行中で来春を目標に完成を期している。

こうした中、去る十四日夕刻、当社清明殿神座の還座祭が厳行された。この清明殿も昭和十一年に建築された。

れた木造物で損傷もはげしく、今期の修復工事に合せ大修理が行われるので一時御神座を御本殿に還座したのである。

清明殿は去る昭和十一年に建築された。その概要は清明殿新築の銅板による左記の通りである。



清明殿新築碑
起工
昭和十一年五月十二日
竣工
昭和十一年十月十五日

工費 壹萬四千五百圓
寄付者 遠野郡中町町
岩崎 鶴亀
目的 修養道場トシテ社会教化ノ殿堂ニ充テ併テ氏子一般崇敬者ノ参集所トス

神畑造成される

祭事に欠く事の出来ない樹木は神である。木偏に神と書くこの樹木は「サカキ」と読む。神社などに植える常緑樹の一つで枝葉を神前にそそげる」とと辞典にある。玉串に神籠りに使用されるこの樹木は神畑として大切な木である。

当大社の神使用は大変多く、境内の自生神では対応出来ない。去る昭和五十一年当大社第二・第三宮の裏森に畑が作られ数百本の神が植樹され現在この神が使用されている。しかし祭事に合せ、枝を真を切り取られ、対応出来ない現状である。広い境内の大樹の下、小高い森の中にある高宮齋場周辺の樹木間にも、神は植樹されているが、まだ充分ではない。



これの対応策として、今月十二日より高宮齋場の森下にある畑(約三反歩)を神畑に造成しようと内山緑地株式会社の手で造成工事

が進められている。この畑は古くから「郡屋敷」と呼ばれている地であり、この関係深い土地である。この地の周辺に当社古祭事「古式祭」(師走十五日)に斎行される祭典。IIに使用される「クリバシ」を取る栗の木とみかんの原種と言われる「クネンポー」(特殊神籠りの一つとして神前に供

要する。この神畑が神前に掛けられる日を待ちながら、今後さらなる手入れが必要である。真夏の水かき、害虫駆除の消毒散布等々心を込めて管理しなければならぬ。しかし、その努力があればこそ神前に掛けられる玉串の神葉が美しいのである、そこに真心が宿る。それが神恩感謝の姿となり、神事の原点となる。

祭事に欠く事の出来ない樹木に管理し心を込めて育成する姿も又神へ奉仕する美しい日本人の心得であらう。

菊友会々員を募集

宗像市に在るの菊花愛好者を募集しています。初めて作ろうと思われる方も歓迎します。

一、講習会開催日 毎月第二水曜日 午後一時より
一、講習会場 宗像大社
一、対象 宗像市郡ならびに近郊在住の男女

一、会費 年会費 三千元
一、受付・問合せ 宗像菊友会々長 水島 文男
〇九四〇一三六一三三二
事務局 宗像郡支海町 宗像大社内
〇九四〇一六二二二二

社務日誌抄

二月一日 月次祭
二月二日 出光タカ一様業務 部長安藤秀之氏
他々名参拝
出光興産(株)顧問麻生和正氏、渡邊茂太郎氏、他々名参拝
二月三日 節分祭
神饗子丑会(〇名参拝)
二月四日 J.R九州諫早駅二十五名参拝
二月五日 福岡教育大学々々長田代高英氏退任挨拶の為来社
二月七日 熊本県球磨郡須藤村教育委員会十五名参拝
二月八日 出光興産(株)業務部次長北村修一氏他一名参拝

初の内閣整理大臣であり、あの昭和十一年雪舞う中に起きた「二二六事件」により総辞職した岡田内閣のあとを受けて内閣を組織し、組閣早々から入閣問題に軍の強い圧力を受けながら内閣を守った大経理は、又第二次世界大戦の経緯は、日独伊の各外相として活躍したが、戦後入獄戦犯として起訴され、文官となつた人である。頭上には舞々章印文字の「清明殿」額を仰ぐ時、福岡県の誇る偉人「廣田弘毅」を偲びつつ、当大社中津宮正面揮毫籠にも大社にも先生の揮毫があった事思い出した。

名参拝
出光興産(株)仙台支店長久保道氏他十九名参拝
山元氏(株)船子愛知出張所々々長他一名参拝
女海町消防団第一分団歴代分団長参拝
二月十一日 建国祭
出光興産(株)東京支店東京出光光十社二〇名参拝
二月十五日 月次祭
千華興産(株)代表取締役大村賢行氏四名参拝
出光興産(株)松本支店長八十島碧海氏並新湯光運会松本支部七名参拝
新庄八幡社宮司浦地孝氏他八十四名参拝
鹿谷本学社文化研究部所佐々木利二氏参拝
二月十六日 出光興産(株)京支店長岡村輝男氏並出光興産(株)支店長五十名参拝
二月十八日 田島区婦人部四十五名境内清掃奉仕
二月十九日 靖国神社主典喜波博嗣氏他一名参拝
二月二十日 宗像大社奨学奨励会卒業生定行合せ会
二月二十一日 出光北海道建設保安部力々々々長小西強志氏他二十五名参拝
二月二十四日 出光興産(株)千葉製油所副所長橋本敦男氏並神崎宗像会代表市原原部長小出善三郎氏他十名参拝
二月二十六日 若布献土奉告祭
二月二十七日 若布献土
氏他一名参拝
二月二十八日 若布献土
助役日本達也氏退任挨拶の為来社
二月二十九日 若布献土
若布献土
二月二十九日 出光興産(株)人事部部長木村義弘氏他二名参拝
伊勢湾シーパス(株)代表取締役佐賀良晴氏他二名参拝

宗像大社神座を御本殿に還座したのである。

清明殿は去る昭和十一年に建築された。その概要は清明殿新築の銅板による左記の通りである。

清明殿新築碑
起工
昭和十一年五月十二日
竣工
昭和十一年十月十五日

工費 壹萬四千五百圓
寄付者 遠野郡中町町
岩崎 鶴亀
目的 修養道場トシテ社会教化ノ殿堂ニ充テ併テ氏子一般崇敬者ノ参集所トス

宗像大社神座を御本殿に還座したのである。

清明殿は去る昭和十一年に建築された。その概要は清明殿新築の銅板による左記の通りである。

清明殿新築碑
起工
昭和十一年五月十二日
竣工
昭和十一年十月十五日

工費 壹萬四千五百圓
寄付者 遠野郡中町町
岩崎 鶴亀
目的 修養道場トシテ社会教化ノ殿堂ニ充テ併テ氏子一般崇敬者ノ参集所トス

宗像大社神座を御本殿に還座したのである。

清明殿は去る昭和十一年に建築された。その概要は清明殿新築の銅板による左記の通りである。

清明殿新築碑
起工
昭和十一年五月十二日
竣工
昭和十一年十月十五日

工費 壹萬四千五百圓
寄付者 遠野郡中町町
岩崎 鶴亀
目的 修養道場トシテ社会教化ノ殿堂ニ充テ併テ氏子一般崇敬者ノ参集所トス

宗像大社神座を御本殿に還座したのである。

清明殿は去る昭和十一年に建築された。その概要は清明殿新築の銅板による左記の通りである。

清明殿新築碑
起工
昭和十一年五月十二日
竣工
昭和十一年十月十五日

工費 壹萬四千五百圓
寄付者 遠野郡中町町
岩崎 鶴亀
目的 修養道場トシテ社会教化ノ殿堂ニ充テ併テ氏子一般崇敬者ノ参集所トス

〔祭典案内〕

沖津宮現地大祭

来る五月二十七日、宗像大社沖津宮に於て、日本海戦の日を記念し国家の安泰を祈る、沖津宮現地大祭を厳行します。参拝希望の方は御申込下さい。様例案内致します。

沖津宮現地大祭要項
一、参拝者は、沖津宮奉賛会費として一名に付、壹萬円お納め頂きます。
二、参拝希望の方は、当社製の参拝申し込み書を五月十日迄(必着)に、宗像大社々々務所宛に御返送下さい。
三、五月二十六日(日曜日)午後六時迄に中津宮(天島)に到着し、受付を済ませ、宵宮祭に参列して頂きます。
四、五月二十七日(月曜日)午前六時大島を出発。沖ノ島到着後、直ちに海水にて禊をして頂きます。祭典は午前十時開始の予定です。
五、大島ノ神楽のフェリー最終船は午後六時です。六、渡島不可能の場合は、大島の沖津宮遙拝所に於て祭典を厳行致します。
七、乗船者数に制限がありますので、定員を超える場合は「ご遠慮頂く」ことがあります。
八、年令七十才以上の方の渡島は、関係筋の通達により「ご遠慮願います」。
九、長時間の乗船に堪えられない方や、健康状態が良好でない方は御遠慮願います。
十、申し込み者には、受付後参加の可否を、葉書にて御通知申し上げます。
沖津宮参拝心得
一、遊山、釣魚等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。もし、違反があれば、乗船をお断り致します。
二、沖ノ島上陸の際は、古例により海水にて禊をし、心身を清める事。
三、御神水以外は、一木一草一石たりとも持ち帰る事を禁止します。
四、厳重なる戒がある為、婦女子の参拝は固くお断り致します。
五、大島での宿泊につきましては、宗像大社ではお世話しかねます。参拝要項に同封の、大島の旅館・民宿のパンフレットを御参照の上、各自にて直接予約をお願い致します。
六、参拝申込書、心得、要項等を用意しておりますので、返信用の手封の上左記宛御申込み下さい。
申込先
〒八二一三三三
福岡県宗像郡支海町田島
宗像大社々々務所 儀式課 沖津宮現地大祭係
電話 〇九四〇(62)一三三二(代)
FAX 〇九四〇(62)一三二五

